

秋田県市町村未来づくり協働プログラム

潟上市プロジェクト「安全「防災」・安心「健康」潟上プロジェクト」における 事後評価調査

1 プロジェクトの目的

潟上市は沿岸部に位置しており、大規模地震発生時の津波被害への対応が防災対策上の課題となっていることから、医療救護や救援物資等の速やかな応急救助のほか、自主防災組織の育成や普及啓発など、平時からの防災対策が求められている。

また、本市は県内市町村の中では若い世代の比率が高い地域であるものの、今後の人口減少や高齢化率の上昇は避けることができないことから、若い年代から健康に関心を持ち、運動を習慣づけることによって、健康寿命の延伸を図ることが重要な課題となっている。

このため、旧八郎潟ハイツ跡地を含む飯田川南公園一帯を防災拠点として位置づけ、その中核となる施設を整備し、県と連携した防災備蓄庫を設置するとともに自主防災組織の育成や住民の防災意識の向上等に取り組むほか、若い年代から健康づくりに積極的に取り組むことができる環境を整え、安全・安心で元気な地域となることを目指す。

2 プロジェクトの概要

策定年月日	実施期間	潟上市事業費 (千円)	交付金 (千円)	協働事業費 (千円)	総事業費 (千円)
		A		B	A + B
H28. 3. 25	H28～R1	918, 330 (848, 520)	200, 000	549	918, 879

※ () 内は計画値

【プロジェクトを構成する事業】

○ 潟上市実施事業

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	実施年度
防災と健康の拠点づくり	916, 719	200, 000	H28～H30
防災体制の充実強化	1, 611	0	H28～R1
運動習慣の定着を目指した健康づくりの推進	0	0	H28～R1
計	918, 330	200, 000	

○ 県実施事業

事業名	総事業費 (千円)	実施年度
県備蓄の分散化	259	H30
自主防災アドバイザーの派遣	26	H28～R1
生活習慣病の実態周知	0	H28～R1
計	285	

○ 協働実施事業

事業名	総事業費 (千円)	実施年度	備考
災害時の救援物資供給の仕組みづくり	0	H28～R1	ゼロ予算事業
大規模災害を想定した防災訓練	0	H28	縣市防災訓練 事業で実施
地域・職域連携による地域ぐるみの健康づくり 基盤整備	264	H28～R1	
計	264		

3 プロジェクトの成果指標と達成状況

【定量的指標】

指標名	基準値 (H27)	目標値 (R1 年度)	実績値 (R1 年度)	達成率
新施設利用者数 (人)	—	15,400	52,316	340%
自主防災組織率 (%)	35.5	60.1	42.4	71%
健康づくり目的利用者数(人)	—	8,600	44,596	519%

【定性的指標】

○ 防災拠点の役割の明確化について

プロジェクト事業として整備した「トレイクかたがみ」をはじめとする潟上市内の防災拠点が果たすべき機能や、災害時の具体的な活動、平常時の活用方法等の基本的な考え方を取りまとめた「潟上市地域防災拠点活用計画」を策定し、防災拠点の役割を明確化した。

○ 物資供給体制の整備について

プロジェクト事業として整備した「防災備蓄倉庫」に災害時、潟上市等で必要となる物資を備蓄するとともに、輸送事業者等と連携した物資輸送訓練を実施した。

また、救援物資に関する対応手順などを定めた「潟上市 災害時における緊急物資の調達・輸送・供給マニュアル」を作成し、災害時に必要となる物資の迅速かつ安定した供給ができる体制を整備した。

4 潟上市総合計画策定に係る市民アンケート結果

○ 潟上市の現在の状況（満足度）と今後のまちづくりにおける重要度

（括弧内は、アンケートで設定した施策項目（H26 年度 30 項目、R1 年度 39 項目）中の順位）

《H26 年度実施》

《災害対策》

満足度 27.9% (24 位/30)
重要度 79.3% (2 位/30)
優先度 10.92 (3 位/30)

《R1 年度実施》

《災害対策》

満足度 32.2% (16 位/39)
重要度 74.5% (1 位/39)
優先度 8.34 (4 位/39)



- ・ 満足度は 4.3 ポイント増加した。
- ・ 重要度は 4.8 ポイント減となったが、施策全体に占める順位が 1 位に上昇したことから、市民意識の高揚は図られたものと考えられる。

《H26 年度実施》

《保健活動の充実度》

満足度 31.4% (10 位/30)
重要度 64.9% (19 位/30)
優先度 -3.89 (19 位/30)

《R1 年度実施》

《保健活動の充実度》

満足度 30.2% (11 位/39)
重要度 64.5% (21 位/39)
優先度 -1.30 (24 位/39)

- ・ 満足度及び重要度の割合は微減しているが、優先度はマイナス幅が縮小しており、市民意識の変化がうかがえる。

○ 自己の生活や地域に関する直近 1 年程度の振り返り

《H26 年度実施》

《災害時の避難場所を知っているか》

知っている 72.2%
知らない 22.3%

《R1 年度実施》

《災害時の避難場所を知っているか》

知っている 74.5%
知らない 20.4%

- ・ 知っていると答えた市民の割合が 2.3 ポイント増加し、知らないと答えた市民の割合が 1.9 ポイント減少している。特に 70 歳代以上では知っている割合が 6.1 ポイントも増加したほか、10・20 歳代でも 4.2 ポイント増加している。

《H26 年度実施》

《居住地域は災害に対して安全か》

そう思う 57.0%
そう思わない 22.1%

《R1 年度実施》

《居住地域は災害に対して安全か》

そう思う 64.1%
そう思わない 13.8%

- ・ 災害に対し安全だと思う市民の割合が 7.1 ポイント増加し、安全と思わないと答えた市民の割合が 8.3 ポイントも減少していることから、市民の安心感は全体的に向上している。

《H26 年度実施》

《健康づくりに取り組んでいるか》

はい 51.9%
いいえ 33.0%

《R1 年度実施》

《健康づくりに取り組んでいるか》

はい 52.3%
いいえ 32.9%

- ・ 全体的には微増であるが、「トレイクかたがみ」がある飯田川地区の市民が 10.8 ポイントも増加した。年代別では 50 歳代で 6.5 ポイント、40 歳代でも 6 ポイント増加するなど、働き盛り世代の伸びが目立つ。

《H26 年度実施》

《運動・スポーツを行った日数は？》

週 3 日以上 22.1%
週 1～2 日 22.2%
月 1～3 日 19.1%
年 3 日以下 21.3%

《R1 年度実施》

《運動・スポーツを行った日数は？》

週 3 日以上 22.3%
週 1～2 日 24.9%
月 1～3 日 21.4%
年 3 日以下 17.8%

- ・ 日常的に体を動かす習慣（意識）が確実に定着してきている。特に 10・20 歳代で 8.6 ポイント、70 歳代以上の高齢世代で 6.3 ポイント増加したほか、40・50 歳代も増加している。なお、30 歳代では 10.3 ポイント減少しているものの、同世代は月 1～3 日と答えた割合が全世代中トップとなっている。

5 その他参考となる事項

○ 各種防災研修・講習会の実施

大規模災害を想定した秋田県総合防災訓練を平成28年8月に開催（対象地域：潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町）したほか、毎年「県民防災の日（5月26日）」に潟上市総合防災訓練を実施し、避難所運営、炊き出し、自主防災組織活動、災害対策本部運営等の訓練を行った。

また、住民の防災意識の醸成及び自主防災組織の育成等を目的に各種防災研修や講習会を実施した。

実施内容	H28	H29	H30	R1	計
防災訓練（回）	3	2	1	2	8
防災研修会・講習会（回）	11	10	11	10	42

○ 自主防災リーダーの育成

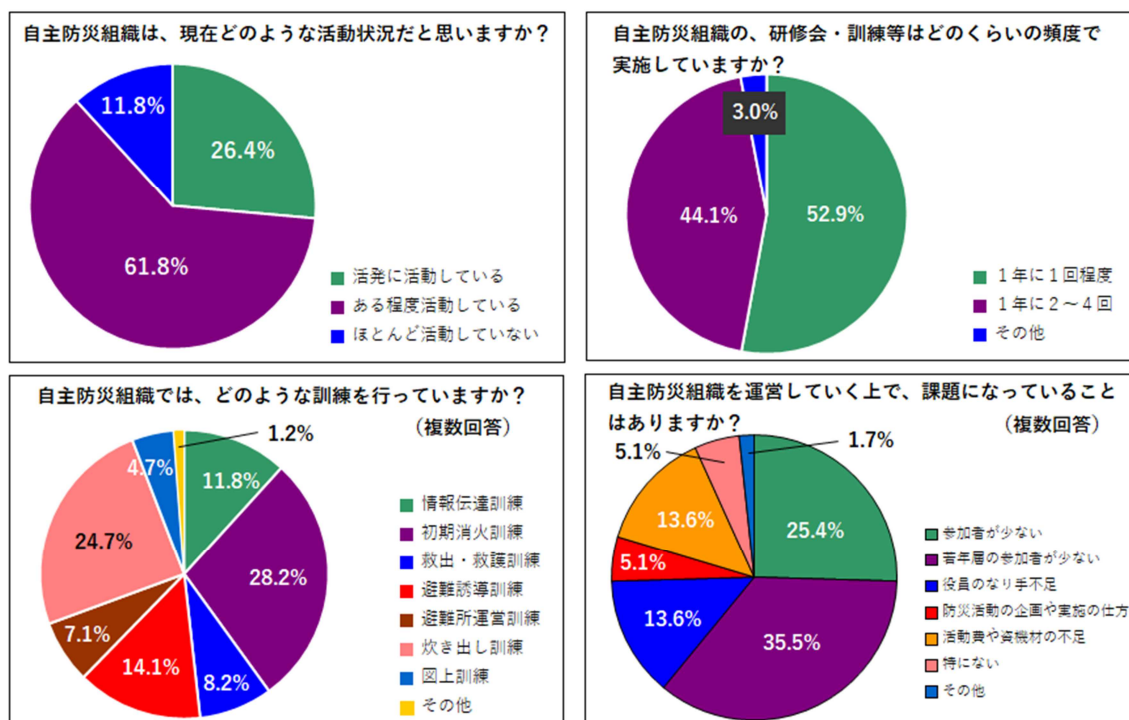
県の補助事業を活用し、地域の防災力の向上に意欲のある人材を自主防災組織の立ち上げや活性化等を進める「自主防災リーダー」として2名育成した。

【実施内容】

防災士資格の取得、県内防災施設視察研修（研修先：県総合防災課、秋田地方気象台、県備蓄倉庫等）、県外研修（人と防災未来センター（兵庫県）等）

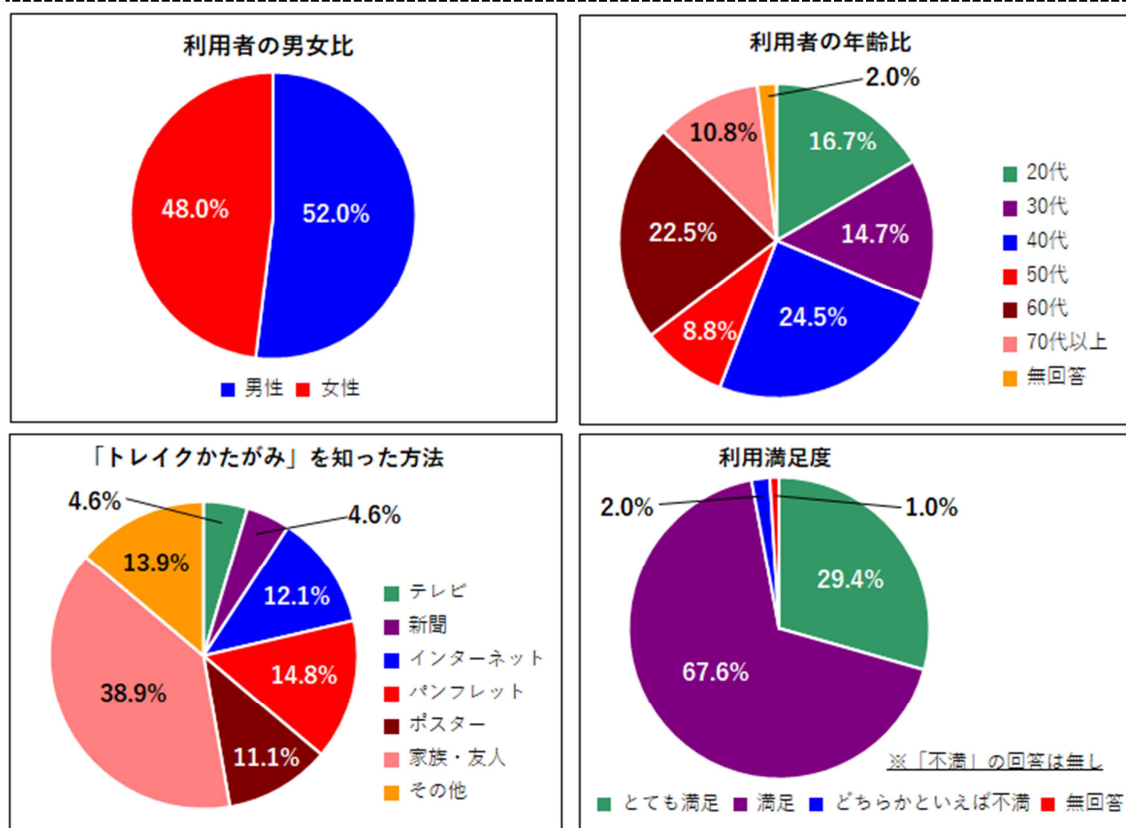
○ 自主防災組織研修参加者アンケート調査結果

- 調査日：令和2年11月7日
- 実施方法：「感染症対策避難所用備品の展示、設置体験研修」終了後に記入を依頼
- 集計状況：研修参加者36名のうち34名が回答



○ 「トレイクかたがみ」利用者アンケート調査結果

- 調査期間：令和2年9月1日～令和2年10月3日
- 実施方法：受付カウンターに意見箱を設置し、施設利用者からの意見等を収集
- 集計状況：施設利用者 102 名

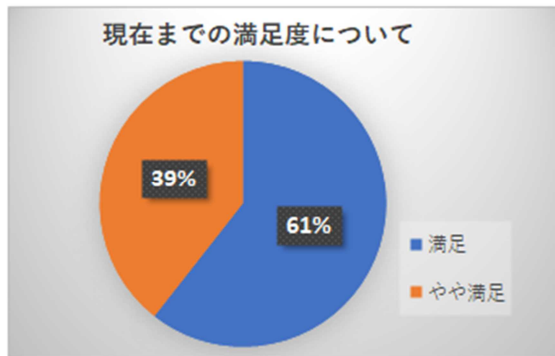


○ トレイクかたがみ運動コース受講者アンケート調査結果

- 調査期間：令和2年9月16日～30日
- 対象者：トレイクかたがみ運動コース（ロコモ予防コースA・B、生活習慣改善コースA・B、運動不足解消コースA・B）の参加者（41名）



- ・ やや強い「運動強度」とやや難しい「複雑さ」で運動を行うことは、筋力・筋量の増加及び認知症予防へとつながるが、その反面、怪我のリスク増加やモチベーション及び継続率の低下につながる恐れがあるため、怪我へのリスクマネジメントや強度は維持しながらも、運動が楽しいと思える指導を目指すことなどが今後の課題と考えられる。



- ・ 現在までの満足度については「満足」が61%、「やや満足」が39%であったことから、十分な評価を得ているものと考えられる。

なお、「ふつう」、「やや不満」、「不満」の回答は無かった。

○ インターバル速歩講演実践会の開催

緩歩と速歩を組み合わせて行う「インターバル速歩」を広めるために、信州大学より講師を招聘し講演実践会を開催した。

- 日 時：平成30年11月1日（木）13：30～16：00
- 場 所：トレイクかたがみ
- 参加者：保健・医療・福祉 行政等関係者、マスコミ（120名の参加）

○ 食生活改善推進協議会健康づくり研修会の開催

食生活改善推進員が各地域での健康づくり事業をより円滑に推進するために、「インターバル速歩」についての知識と技術を習得する研修会を開催した。

- 日 時：令和元年10月23日（水）10：00～11：30
- 場 所：トレイクかたがみ
- 内 容：実技「インターバル速歩を実践してみよう」
講師 IWTインストラクター
- 参加者：食生活改善推進員69名、行政11名

6 民間アドバイザーの意見

（民間アドバイザー：岡山理科大学理学部基礎理学科 教授 鎌滝孝信 氏）

（１）防災と健康の拠点づくり

本プロジェクト事業で整備した「トレイクかたがみ」について、防災拠点としての防災備蓄倉庫、健康増進施設としての建屋は当初の目的どおりのものが整備されたと評価する。また、施設利用者数に関しては、目標値を大きく上回る結果となり、行政として市民の要望に大きく応えていることの現れといえる。

特に、健康増進施設に関しては「健康」をキーワードとした地域振興にもつながる可能性があると思われ、今後の更なる利活用に期待したい。そして、防災備蓄倉庫についても機能的な動線が確保できており、今後の運用に期待したい。

（２）防災体制の充実強化

自主防災組織の組織率向上に関する目標については、目標値を大きく下回る結果となっている。ただし、元々の組織率が全国平均を大きく下回る中でスタートで、更に本事業における取組状況等を勘案すると妥当な結果ともいえる。自主防災組織の組織率が直接市民の防災意識を表すとは言えないが、一つの指標であることは確かなので、引き続き数字

の引き上げを目指すことは必要である。なお、今までと同様の取組では成果が出ないと考えられることから、次の取組を検討することを強く望む。

- ① 市の防災担当者が強いリーダーシップを発揮し、自治会等を引っ張っていけるような環境づくりを行う。
- ② 秋田大学と連携するなど地域防災の専門家を防災アドバイザーとして迎え、市民の防災意識高揚につながるような実践的な防災研修等を企画・実施し、その効果を都度検証し次に生かしていく。
- ③ 他地域で実施されている防災運動会などを参考に、より市民の参加が容易な防災イベントを検討・実施する。

これらは簡単な取組ではなく、即効性があるとも思えず5年以上という時間がかかるかもしれないが、現状を打破するためにも是非検討していただきたい。

(3) 運動習慣の定着を目指した健康づくりの推進

施設の利用率、利用者の満足度ともに高く、この事業の中では非常にうまくいっている印象である。今後は現状の利用者が飽きないような工夫と新規利用者の拡大が課題となるであろう。新たな取組を考える上で「防災と健康の拠点づくり」という当初の看板にあるように防災と健康を絡めた事業を検討していただきたい。例えば、防災運動会、防災キャンプ等と今まで本施設で取り組んできたインターバル速歩を組み合わせ実施していくなど、新しい事業展開を検討して欲しい。

7 全体評価

プロジェクトの構成事業については、防災と健康の拠点となる「トレイクかたがみ」の整備、地域防災拠点活用計画の策定、住民等の防災意識の高揚や健康づくりのための運動プログラムの提供をはじめ、概ね順調に実施することができた。

成果指標の達成状況としては、「トレイクかたがみ」における「施設利用者数」の達成率が339.7%、「健康づくり目的利用者数」の達成率が518.6%となり、目標を大きく上回った。これは、当該施設が潟上市民の健康づくりに広く活用された結果であり、健康寿命の延伸にもつながっているものと評価できる。

新型コロナウイルス感染症の影響により減少した利用者数も令和2年6月以降は回復傾向にあるが、今後も十分な感染症対策を講じるとともに、新しい生活様式に適応したサービスの提供が必要と考えられる。

次に「自主防災組織率」については、総合防災訓練の実施、防災に関する研修会の開催、自主防災リーダーの育成等を行ってきたものの、目標達成には至らなかったところである。

その一因として、自主防災組織の育成等に係る事業の効果が、プロジェクト期間のみでは十分な浸透が図れずに、自治会の中に組織化は不要と判断し、組織結成につながらなかったところもあったと推測される。

このため、今後も住民等の防災意識の高揚を図るとともに、県の自主防災アドバイザーの派遣などにより、あらゆる機会を捉えて自治会に対して自主防災組織の必要性を説明し、自主防災リーダーとも連携しながら、組織立ち上げに係る支援等を行い、更なる組織率の向上を推進していく必要がある。

8 今後の推進方針

民間アドバイザーの意見や全体評価を踏まえ、次のとおり推進するものとする。

(1) 防災・健康づくり拠点の利活用の更なる推進

防災・健康拠点施設「トレイクかたがみ」は、当初の予定を大幅に上回るペースで住民等の健康づくりに利用されているが、引き続き、施設・イベント情報をパンフレットやインターネットを通じて周知するほか、若い世代向けにSNSを活用した情報発信等を行い、利用者の新規開拓に努める。

また、住民等の更なる施設利用を推進していくため、災害と健康づくりの両機能の拠点という当施設の強みを生かし、災害時を想定した感染症予防に関する研修会や、本施設で実施した「インターバル速歩講演実践会」を防災分野の事業と組み合わせたイベントなど、新たなメニューによる事業展開を検討する。

(2) 防災体制の充実強化

自然災害が広域化・激甚化する中、引き続き、市主催の総合防災訓練を実施するとともに、県のアドバイザー派遣事業の活用や実践的な防災研修の実施により、住民の防災意識の更なる高揚を図る。

なお、研修等の実施後は、その効果を検証し、以降の事業に改善点等を反映させていく。

また、防災運動会を開催している自治会活動などの先進事例も参考としながら、若者や子どものいる家族などが気軽に参加することができる防災イベントの実施も検討する。

令和元年度に育成した自主防災リーダーと連携しながら、自治会に対して防災に関する講習や防災訓練への参加の働きかけ等を行うことにより、自主防災組織の新規立ち上げや既存組織の活性化を進め、人口減少が進む中においても地域防災力の維持向上を図る。

(3) 運動習慣の定着を目指した健康づくりの推進

健康寿命の延伸を図るため、健康の維持・増進と生活習慣病の発症及び重症化を予防することを目的に、市の健康課題や生活習慣病予防・重症化予防について周知するとともに、個々の健康状態に合わせた実践方法について知識の普及・啓発を図る。

さらには、内科的疾患や整形外科的疾患など種々のリスク保持者が運動する際に、カウンセリングや実際の動きを確認しながら適宜アドバイスを行うなど、個々が無理なく継続して運動ができるよう引き続き支援する。

【プロジェクトチーム構成員】

潟 上 市	総務課、健康推進課、企画政策課
秋 田 県	総合防災課（幹事課）、地域づくり推進課、健康づくり推進課、秋田地域振興局